

 **光洋製瓦株式会社**

〒679-2101 兵庫県姫路市船津町5241-5

TEL.079-232-5295(代) FAX.079-232-7003

E-mail info@koyoseiga.co.jp

<http://www.koyoseiga.co.jp/>



美しい瓦のふるさと「船津町」

光洋製瓦のある船津町は、兵庫県姫路市の北東部に位置し、市川の清流と豊かな自然に恵まれたまち。

古くから市川の上下、東西を結ぶ要地であり、かつて市川河岸に船泊り場があったことから「船津」の地名がついたともいわれています。

ここ船津町には、昔から瓦の材料となる良質の粘土があり、1805年、姫路城主の命を受け、その地に窯を開いたのが始まりです。1930年頃までは、多くの瓦屋が軒を並べ、「神崎瓦」の名で全国に知られるなど、姫路の地場産業としての地位を確立いたしました。

現在、製造元は、少なくなってきたものの多くの歴史的建造物に本物の日本瓦とその伝承された技術～日本の伝統文化～を見るることができます。



光洋自慢の単窯が並ぶ工場の奥には四季を通じて豊かな表情をみせてくれる蓮池がゆったりと広がっています。
手間をかけずに本物は生まれません。光洋製瓦は今も神崎瓦の伝統を守り、昔ながらの質の高い「いぶし瓦」をつくり続けています。

いぶし瓦の歴史

瓦がいつ頃どこで生まれたかについてはいろいろな説があり、残念ながらはつきりとした事は未だ分かってはいませんが、一説では4000年前とも5000年前ともいわれています。

日本書紀によると日本の瓦の歴史は、西暦588年の飛鳥寺の建立時に4名の瓦博士によって中国より伝えられたとされているほど長い歴史を持ち、仏教の興隆とともに大きく発展してきました。

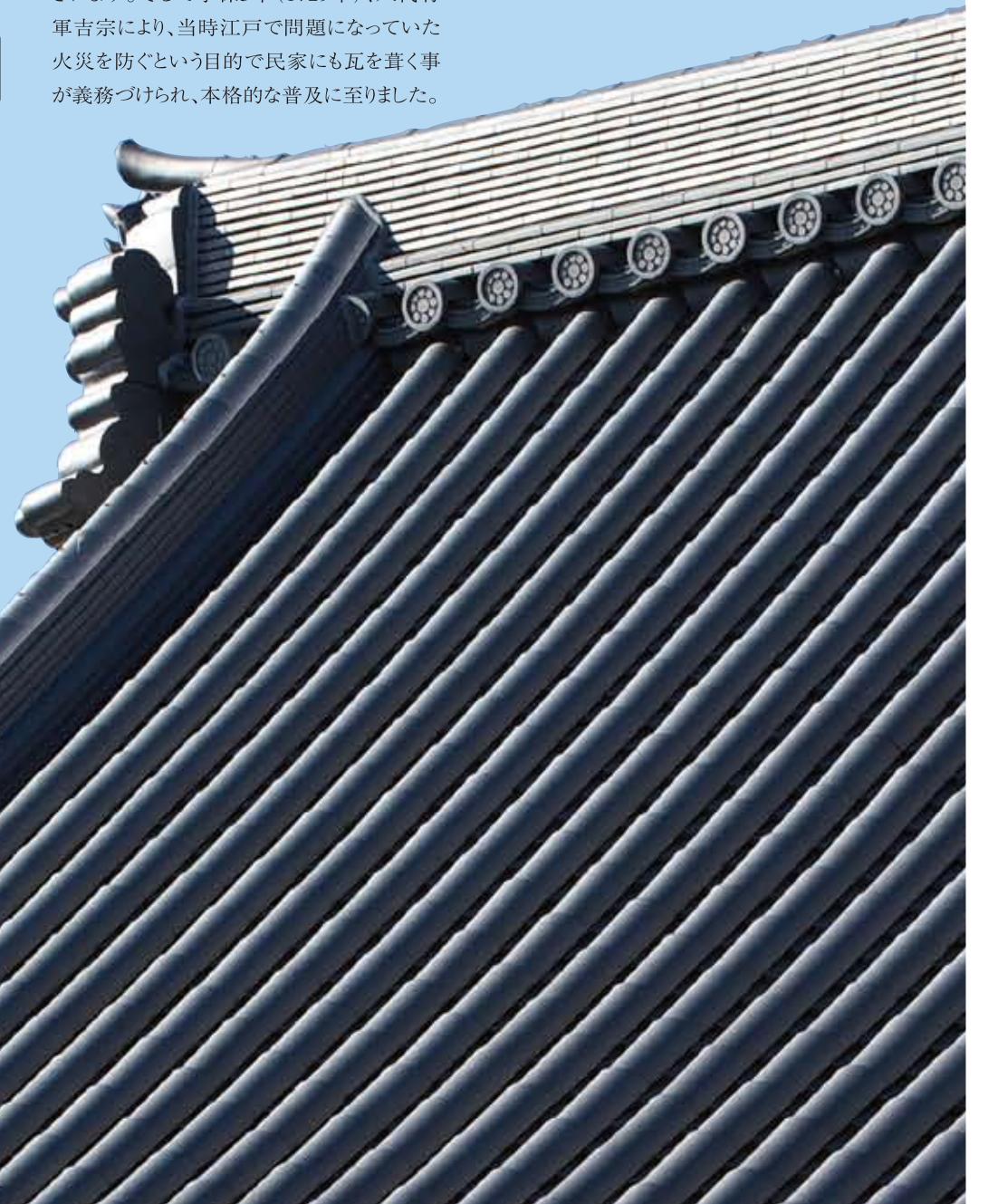
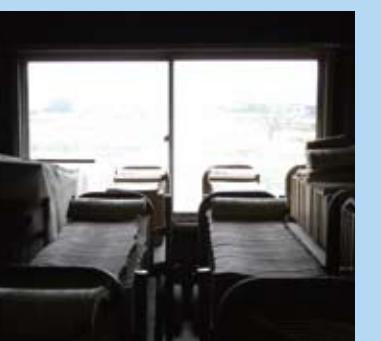
『いぶし瓦』の製法が伝えられたのは安土桃山時代、明の一觀という人物によるものという説が有力です。一觀は織田信長の命により、安土城の粘土瓦を制作していますが、この時に粘土瓦を焼いて作る造法を伝えたようです。

しかし、本葺形しかなかった当時は瓦自体が高級品で一般家庭には普及していなかったのです。江戸時代に入って延宝2年(1674年)、近江大津の西村半兵衛により本葺形の丸瓦と平瓦を一体化した浅瓦の前身が開発されます。そして享保5年(1729年)、八代将軍吉宗により、当時江戸で問題になっていた火災を防ぐという目的で民家にも瓦を葺く事が義務づけられ、本格的な普及に至りました。

いぶし瓦とは？

日本建築の屋根に多くみられるいぶし瓦。深い銀色の光沢と清楚な美しさは、日本の風土に根ざした深い味わいと伝統の確かさを感じさせます。洋風思考が高まる昨今でも依然として根強い人気を保ち、その独特の色調から『銀色瓦』、『黒瓦』などと呼ばれる事もありますが、正式名称は『いぶし瓦』といいます。

英語ではSmoked tilesと書かれる事からも分かるように、いぶし瓦は、焼成最終工程で“いぶし”と呼ばれる燻化を行い、表面に炭素の膜を形成させます。この炭素の膜に光が乱反射することで、いぶし銀のようなわびさびの味わいのある色と、“サエ”と呼ばれる独特的のツヤが生まれるのであります。



いぶし瓦の長所

耐久性

瓦は他の屋根材に比べ、耐久性に優れている点があります。他の屋根材の多くは10年～20年で寿命を迎えてしますが、瓦は倍以上の40年～50年もつとされています。高品質の瓦になると、100年200年300年と建築物を守っています。

断熱性

粘土瓦は多孔質なセラミックというその材質や厚さ(20mm弱)から優れた断熱性があり、外気の熱が住宅内部に伝わりにくい性質を持っています。このため、冬は室内の暖氣が屋根を通じて逃げにくく、夏は外気の熱が室内に入りにくいので、住生活での省エネ効果があります。

防音性

瓦の厚さ(20mm弱)から室内外の音を伝導しにくく、住宅の防音性効果(遮音)があります。瓦を標準施工した場合、騒音レベルは一般的なオフィスの半分程度になります。

防火性

粘土瓦は不燃性であり、また、その厚さ(20mm弱)から熱を通しにくく、耐火性にも優れた屋根材です。江戸時代、江戸城下はたびたび大火災が発生しました。享保5年(1720年)に発生した大火により、徳川幕府は、江戸城下の建築物を白壁、瓦葺き、土蔵建築を奨励する公示を行ったとされており、当時から瓦の耐火性が認識されていたといえるでしょう。

遠赤外線効果

一般的なセラミックスと同様の遠赤外線効果があります。人間の体温に優しく、屋根瓦だけではなく床や壁材としてデザインを変えて『いぶし瓦』を用いるのはこの効果の恩恵が大きいのです。

電磁波吸収効果

いぶし瓦の表面にはカーボンフィルムと呼ばれる炭素被膜が形成されています。このカーボンは、今後最先端の科学技術に応用する事ができ、電磁波を吸収するという性質を活かし一例として高速道路のETCにも使用されています。

エコ素材

いぶし瓦は土と炭素によってできた天然素材のものなので、環境にも人体にも無害です。

美しい

人間が感じる事のできるワビ・サビの世界の美しさをかもし出せる数少ない自然素材です。自分はあまり目立たずまわりに気品を持たせます。



姫路城を望む、城見台公園。ここに2mの一对の鰐瓦が設置されています。大天守の鰐瓦を原寸大に復元したもので、光洋製瓦の職人構井一巳が製作。鰐の間から天守閣が見える絶好のスポットです。

姫路城と光洋瓦

平成5年にユネスコ世界遺産に登録された「姫路城」。

池田輝政、羽柴秀吉(豊臣秀吉)など、歴代の戦国武将により当時、最高峰の城郭技術をもって築城されました。一度も戦火を被ることなく現存する城は、築城400年を超える現在、貴重な文化遺産として日本の城郭建築の粹を現代に伝えます。

また、白鷺が羽をひろげたように見える美しいその姿から「白鷺城」ともいわれる姫路城。その優美な造形、光を受けて輝くお城の重要な役割を担っているのが、入り組んだ幾重もの屋根に、鰐瓦や鬼瓦などのいぶし瓦——「神崎瓦」の存在です。

光洋製瓦のある姫路市船津町(旧神崎郡船津村)は、良質の粘土がとれることから古くから瓦造りが行われていました。

特にその名が知られるようになったのは、文化二年(1802年)、姫路藩御用瓦師であった小林又右衛門が、良質の原料を探し求め船津町に移住し、窯を開いたのがはじまりといわれます。以来、昭和の初頃まで多くの瓦屋が軒を並べ「神崎瓦」の名で全国的に広まっていきました。

時代の変化の中で、瓦製造業者の数こそ減少しましたが、光洋製瓦は今も神崎瓦の伝統を守り、昔ながらの質の高い「いぶし瓦」にこだわりながら製造を続けています。

姫路城の美しい姿に見守られながら、この地で日本の伝統技術を後世へ受け継いでいきます。

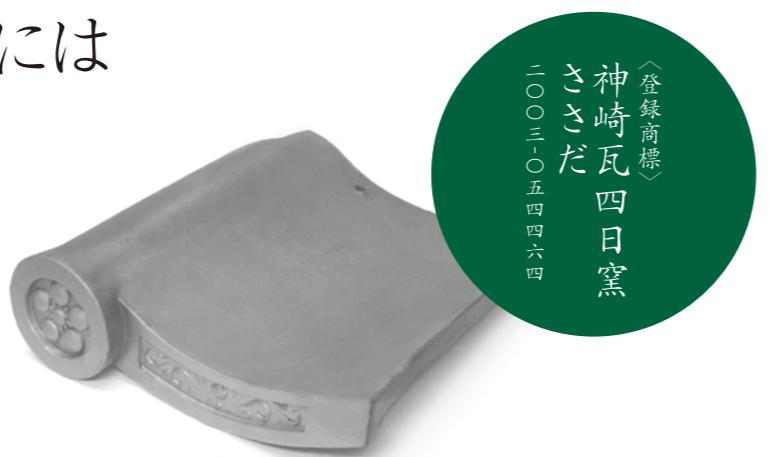


姫路城改修工事において光洋製瓦の鬼師構井一巳氏をはじめとする光洋の職人達が製作した瓦が各所に使用されています

※朱色:昭和51年～昭和62年
オレンジ色:平成23年～24年
国宝姫路城大天主保存修理工事



光洋製瓦の強さと美しさには理由があります。



理由

土へのこだわりと想い

昔から「一に土、二に焼き、三に造り」と言われてきたように、瓦の善し悪しを決める最大の要因は今日でも土であることに変わりはありません。

光洋製瓦のある姫路市船津町は、古くから長時間・高温の焼成にも耐えることができる良質の粘土の産地として知られていますが、私たちは性質に違いのある数種類の粘土を独自の比率でブレンドし、それぞれの長所を引き出しています。

理由

守り続ける「みがき」工程

今では大半のメーカーが省いていますが、私たちは昔ながらの「みがき」工程を今も大切に守っています。「みがき」とは、焼成の前に、プレス機で生成された瓦の表面を1枚1枚ヘラやコテで丹念に磨いて滑らかにする作業のこと、いわばお化粧前の素肌のお手入れ。この手間をかけることにより「いぶし」がより美しく上がります。



理由

手加減による「ため」

高温、長時間焼成をすると焼き物は形状が変化します。カキモチやスルメを焼いた場合と同様に歪んだり、反ったりしてきます。その変化を見込んで「みがき」工程の最後に「ため」を入れます。変化する方向と逆に曲げたり、反らしたりするこの「ため」を入れることで、真っすぐに焼き上げることができます。土のクセを見抜き季節、温度、湿度に応じてこの「ため」の具合を変えていくのが、経験を積んだ職人の腕の見せ所です。この技術がなければ、高温、長時間焼成される、高品質な瓦は生まれません。

理由

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3

3



文化財・社寺を中心とした光洋製瓦の主な施工実績

- ①口羽家住宅(重要文化財)【山口県萩市】
- ②達磨寺(法輪寺)本堂等【京都市上京区】
- ③龍野城 本丸・隅櫓【龍野市龍野町】
- ④聚遠亭茶室(市文化財)【龍野市龍野町】
- ⑤辰鼓櫓(町文化財)【出石郡出石町】
- ⑥出石城 隅櫓【出石郡出石町】
- ⑦賀茂神社 拝殿等(町文化財)【揖保郡御津町】
- ⑧三日月陣屋(町文化財)【佐用郡三日月】
- ⑨三木家(県文化財)【姫路市林田】
- ⑩宗鏡寺 開山堂(町文化財)【出石郡出石町】
- ⑪大覚寺 本堂等(市文化財)【姫路市網干区】
- ⑫姫路城 清水門【姫路市本町】
- ⑬旧坂越公会堂(市文化財)【赤穂市坂越】
- ⑭織田家 長屋門(市文化財)【明石市明石町】
- ⑮龜山本徳寺【姫路市龜山】
- ⑯別格本山瑠璃寺 本堂等(佐用郡佐用)【佐用郡佐用】
- ⑰高家寺(市文化財)【明石市太寺】
- ⑱長寿院(市文化財)【明石市人丸町】
- ⑲船場別院本徳寺(市文化財)【姫路市船場】
- ⑳大塩天満宮 拝殿等【姫路市大塩町】
- ㉑龍門寺(市文化財)【姫路市網干区】
- ㉒旧入江家(県文化財)【高砂市曾根町】
- ㉓姫路城大天守(世界遺産)【姫路市】



●萩 口羽家



●龍野城 本丸御殿



●聚遠亭 茶室 龍野市指定文化財



●大覚寺



●瑠璃寺



●三日月陣屋



姫路城大天守



瓦道具師 構井一巳の
文化財・神社等製作経歴(抜粋)

- 姫路城 菱の門南方土塀
兵庫県姫路市／国重要文化財／昭和51年
- 姫路城への渡櫓他
兵庫県姫路市／国重要文化財／昭和52年
- 口羽家住宅・主屋
山口県萩市／国重要文化財／昭和52年
- 姫路城 にの門他
兵庫県姫路市／国重要文化財／昭和54年
- 江戸城 田安門
東京都千代田区／国重要文化財／昭和54年
- 姫路城 菱の門他
兵庫県姫路市／国重要文化財／昭和54年
- 姫路城 又の櫓・ヨの渡櫓
兵庫県姫路市／国重要文化財／昭和55年
- 姫路城 ヨの渡櫓・レの渡櫓
兵庫県姫路市／国重要文化財／昭和56年
- 黄林格
埼玉県所沢市／国重要文化財／昭和57年
- 法輪寺本堂等
京都府京都市／昭和57年
- 姫路城 力の渡櫓
兵庫県姫路市／国重要文化財／昭和57年
- 姫路城 いの門東方土塀口の櫓
兵庫県姫路市／国重要文化財／昭和58年
- 出石城 隅櫓・辰鼓櫓
兵庫県豊岡市／市指定文化財／昭和59年
- 姫路城 力の櫓北方土塀他
兵庫県姫路市／国重要文化財／昭和60年
- 本興寺 開山堂
兵庫県尼崎市／国重要文化財／昭和59年
- 姫路城 太鼓櫓・ぬの門他
兵庫県姫路市／国重要文化財／昭和61年
- 姫路城 帯郭櫓他
兵庫県姫路市／国重要文化財／昭和61年
- 出石城 東隅櫓・登城門
兵庫県豊岡市／平成元年
- 姫路城 清水門井戸屋形
兵庫県姫路市／平成5年
- 織田家長屋門
兵庫県明石市／市指定文化財／平成9年
- 三日月陣屋
兵庫県佐用郡／町文化財／平成13年
- 三木家
兵庫県姫路市／県文化財／平成20年
- 姫路城大天守
兵庫県姫路市／世界遺産／平成24年

職人の頭が、腕が、覚えている匠の心

光洋製瓦 瓦道具師 二代目構井一巳

長い歴史を持つ光洋製瓦の財産とも言えるのが、鬼師・二代目構井一巳の存在である。

鬼師とは、城郭や寺院建築の鬼瓦や鰐などの役瓦を造る瓦職人という意味だが、播州では一般に道具師と呼ばれている。師は、父でもある初代構井一巳。姫路城や京都・達磨寺などの文化財の瓦復元に優れた技を発揮した名だたる道具師である。その父に学んで40年近く。二代目を継承したが、「まだまだ勉強中」と語り、特に難しいのは“間合い”だと話す。鬼瓦は屋根の上に飾られるものである。従って下からどう見えるかが勝負であり、飾られる高さや場所の違いによって鬼瓦の顔の向きや角度を考え、変えなければならない。その間合いが難しいといでのある。

制作にあたっては、寸分違わぬ復元を要求される文化財の役瓦以外は下絵や図面を描かず、「頭の中に入っている」ままに一から造り上げていく。職人の頭が、腕が、覚えているのである。だが、そんな構井でも、満足できるものはそう造れないといでの。「造った時には満足できたと思っても、何年かたって見たらやっぱり満足できない。職人の道には終わりがないんですよ」まさに職人気質そのものだが、彼が造る鬼瓦にはどこかやさしさが滲み出ている。仏像には彫った仏師の心が表れるというが、仕事への厳しさを超えた人柄のやさしさが、鬼師・構井一巳の真髄なのかも知れない。



It is Cool.

ARARE

KOYO IBUSHI is a natural material generated by Japanese excellent traditional technology.

KOYO IBUSHI is made of just soil and carbon.

Therefore, it is safe for humans and the environment.

KOYO IBUSHI, which has an original silver gloss, is more unique and beautiful than any other material.



いぶしの可能性を探して…

“いぶし銀”という伝統の新素材。

熟練の技と新しい感性の出会いから生まれた

KOYO IBUSHIのコンセプトワーク。培われた伝

統に今までにない発想をプラスすることで、いぶ

しは新しいハーモニーを奏ではじめます。

ARARE POD

For a flowerpot etc.



海外展示会にも出展



ニューヨーク国際ギフトフェア(NYIGF)出展
ニューヨーク国際現代家具見本市(ICFF)出展

Cool & Modern

いぶしの持つ無垢な雰囲気は新しい表現素材としての可能性を秘めています。今までにない、クールでモダンな空間を演出してくれます。住宅はもとより店舗デザインやディスプレイなど、様々なシーンでの活用が期待されています。



It is Warm.

いぶしの可能性を探して…

“いぶし銀”という伝統の新素材。

熟練の技と新しい感性の出会いから生まれた

KOYO IBUSHIのコンセプトワーク。培われた伝

統に今までにない発想をプラスすることで、いぶ

しは新しいハーモニーを奏ではじめます。

銀の馬車道沿いのいぶし瓦の故郷で…

瓦職人にふれる！瓦職人とつくる！

兵庫県姫路市船津町でものづくりの歴史と伝統を脈々とつないでいるいぶし瓦の窯元で見て・学んで・そしてつくる『ほんまもん体験』!!職人や鬼師の指導のもと、実際に瓦造りや粘土細工を体験できるワークショップを実施しています。伝統技術にふれ、一日職人になった気分で楽しんでみませんか？グループ、団体で申し込みを受け付けています。また、ご要望や目的により独自のプログラムも組み立ていたします。



瓦工場見学

瓦の学習

職人にまなぶ

めったに知る機会の少ない瓦についての豆知識・現状・知ってて良かった!!事など学習します。



職人にふれる

稼動する工場を見学して、行程の学習のみならず製作中の職人の技術、汗を体験します。

ここには
バーチャルではない
ほんまもんの
感動があります！



瓦ねんど工作体験

職人とつくる

鬼師や職人の指導を受けながら、自分の手でつくり上げる喜びを体感します。



瓦職人体験

職人と働く

本物の職人と共に、本物の瓦をつくります。(土練り・プレス・瓦みがき・瓦干し・窯積み・窯出し・スス取りなど)

●会社概要

会社名 日本伝統いぶし瓦窯元 光洋製瓦株式会社

代表者 代表取締役 笹田奈都子

創業 大正12年3月10日

資本金 10,000,000円

【事業内容】

・文化財・神社・佛閣・城郭・党塔・

一般住宅などの瓦(製造・販売・屋根葺施工)

・観光事業

・いぶし製品の製造・販売

建築業種 屋根工事業

建設業者登録番号 知事(般一)第456704号

商標登録

・「神崎瓦四日窯さだ」登録第4752286号

・「KOYOいぶし」登録第5325128号

【所在地】

〒679-2101 兵庫県姫路市船津町5241-5

TEL.079-232-5295

FAX.079-232-7003

E-mail info@koyoseiga.co.jp

